



高見大司教様 浦頭に公式訪問 1月21日

島のひかり ホームページアドレス  
<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会  
広報委員会  
五島市平蔵町2716  
TEL 0959-00072  
印刷・(株)才津印刷所

### 奇跡について(4の2)

主任司祭 小瀬良明

Ⅲ あなたは奇跡を信じますかー  
病気など医学的なものに関する奇跡

Ⅳ イエスの奇跡

イエスはガリラヤを巡ってユデア人の会堂で教え、天の国の福音を宣べ伝え、すべての病と長患いをお治しになった(マタイ・4の23) また多くの病人がいやされた。

具体的に多くの奇跡についての記述の箇所があるので、簡単に列記する。

① 中風

ー 中風の人をお治しになった。  
ー 百人隊長のしもべの中風をお治しになった。

② 熱病

ー ベトロのしゅうとめの熱病をお治しになった。

③ 重い皮膚病

ー 重い皮膚病の人をいやされる。また旧約聖書(列王記下

5のSa15)にも記述がある。

④ 出血病

出血病の女をいやされる。

⑤ 盲人

ー 二人の盲人をいやされる。  
ー ベテスダの池の盲人をいやされる。  
ー ベッサイダの盲人をいやされる。  
ー 生まれつきの盲人をいやされる。

### 奥浦修道院 人事移動

◎ ありがとうございます。

(転出)

Sr 田端 佐智子↓生月

Sr 濱村 智恵子↓鯛ノ浦

Sr 大水 友美↓神ノ島

◎ よろしく願います。

(転入)

Sr 山本 佐記子↑新戸町

Sr 片山 ハツエ↑本部

Sr 中尾 菊代↑福江

Sr 岩崎 しのぶ↑西木場

Sr 江口 しの↑太田尾

Sr 黒川 杏菜↑佐世保

# 高見大司教様 公式訪問

一月二十一日、下五島地区堅信式が行なわれる事になり、今年は、浦頭小教区を訪問されました。教会の庭には多くの信徒達が、大司教様をお迎えした。八時からミサが始まり、特別な気持ちで礼拝する事が出来ました。三名の受堅者は、ミサ後、信徒の前で決意表明したことを、大司教様は大変誉めておられました。

ミサ後、小教区役員と大司教様を囲んで、小教区の建物（浦頭、宮原、半泊）の現状を写真で見て頂きました。余り時間もなかった事もあった、特に進展は見られなかったが、大司教様の心の片隅にでも残して頂ければ幸いです。

大司教様の御健康を、お祈り致します。

## 平成30年度 浦頭小教区評議会役員名簿

評議会会長(主任司祭) 小瀬良 明		信仰教育委員会 委員長 鍋内 秀喜 副委員長 鍋内 総長 会計 委員 (小学校) 浜崎 毅 (中学校) 入口 庄二 修道院長 Sr.竹口 菊美 カテキスタ Sr.岩崎 (小1、2年) Sr.黒川 (小4年) Sr.藤原 (小5、6年) 神父様 堅信組
議長 赤尾 栄 副議長 鍋内 秀明 書記 入口 信隆 会計 浜口 幸隆	地区委員会 委員長 浦口 成人 会計 梅木 征至 (地区委員) (補佐委員) 浦頭 浦口 成人 沼田百合枝 川口 清人 鍋内 美保 大泊 梅木 征至 浜泊 浜口 信行 江口 初子 堂崎 入口 末克 入口つるみ 嵯峨瀬 谷口 英子 宮原 大楠 進 半泊 宮川 喜一	典礼委員会 委員長 小田 哲也 副委員長 浜口 幸隆 委員 本村 義則、浦口 一三 浜崎 秀明、荒木 善弘、 浜崎 毅(聖歌)、浜崎 哲司、 鍋内 総長、入口 明宏、鍋内 孝之 木口 北斗、赤尾 幸治、赤尾 克子 江口 初子、川口 秀子
経済問題委員会 (堂崎天主堂保存委員会) 委員長 鍋内 誠次 会計 木口 秀憲 小田 洋市 川口 孝章	シメオン・アンナ友の会 会長 本村 義則 副会長 浜口 信行 副会長 小田 幸子 書記会計 赤尾 スエミ	広報委員会 委員長 竹山 要司 副委員長(島のひかり編集長) 木口 重憲 会計 木口 誠也 委員 小田 洋市、竹山 巧 入口 信、江口 初子 田川小枝子
壮年会 会長 赤尾 淳 副会長 梅木 良勝 書記会計 川口 清人	女性会 会長 木口 幸恵 副会長 赤尾 貴代子 書記会計 赤尾 美智代	
福祉委員会 会長 赤尾 一美 副会長・会計 鍋内 純子	青年会 会長 川口 広平 副会長 木口 大地 会計 鍋内 瑞希	

# 堅信の恵をいただき、二月二十一日

白濱 光玖(みく)

堅信式を終えた今、私は神様の子として、使徒を目指し、祈りを捧げ、カトリック信者として更に学び続けていこうと思います。そして、神様からのお恵みを忘れることなく、多くの人や出来事に感謝しながら歩んで行きたいと思えます。また、聖霊の導きを信じ、心を聖霊によって強めていただき、キリストの真の証人となれるよう頑張っていきます。

これまでお世話になった神父様、シスター。支えてくださった地域のみなさま、本当にありがとうございました。これからも、お手数をおかけすると思いますが、よろしくお願い致します。

鍋内 凌空(りく)

堅信式を受けるため中学生になって毎週、神父様達と勉強をしてきました。その中で「堅信」とはなにか考えたり、七つの秘跡とはそれぞれなにか勉強しま



した。小学生の時には考えなかったことまで考えることができた。堅信式を受けるまで、また受けたときにもたくさんの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

これから、堅信を受けた者として、より信仰を深めていきたいと思えます。

濱崎 沙也加(さやか)

私は、堅信式を終えて、正直特に心境の変化はありませんが、何となく大人の仲間入りをした

ように感じます。堅信式では、少し緊張しましたが、大司教様が優しく接して下さって、無事終わることができました。油を塗ってもらって、「主の平和」と答えた時、これからは一人の信者として、もっと教会に行く意味を考えて、しっかりと祈りしないといけないと思えました。天主の十戒や公会衆の五のおきてを守り、正しい神様の道を日々学び、歩んでいける人間になれるよう努めます。あと、ミサの時にうたた寝をしてしまうことが度々あるので、神父様の話はもう少しちゃんと聞き、お祈りしたいと思えます。



福江教会にて

## 初聖体おめでとう



はっせいたいをおえて

きぐち せいじ

はっせいたいをむかえるために、たばたえんちょうせんせいから、おいのりやイエスさまについてたくさんおしえてもらいました。

はっせいたいのひは、とてもどきどきしました。

ぼくはおおきくなったら、けいさつかんになりたいです。こまっているひとをたすけたいです。イエスさまのように、つよくてやさしいひとになりたいからです。

これからは、ミサでごせいたいをいただけるのでとても、うれしいです。

# 移動信徒の集い

三月十一日。今春、新たな希望を胸に五島を離れる人を対象とした、恒例行事である移動信徒の集いが開催されました。

今年度は、高校を卒業し福岡県へ進学の為に故郷を離れられる、浦頭の濱崎秀明さん・喜美子さんの息子であられる濱崎志成君のお祝いとなりました。

信仰教育委員会の会場準備・進行により会食、挨拶と楽しいひとときとなりました。



御両親と一緒に



みんなでエール

挨拶では、小教区の先輩たちより志成君との思い出や、激励の言葉があり、御両親からは会の開催のお礼、息子を送り出す思いを話していただきました。志成君からは、進学先や将来の目標、両親への感謝について話されましたが、明確な夢を持って旅立たれるのだなあと感心させられました。

また印象的な言葉で、五島を離れる残りの時間は友達とではなく、家族との時間を大切にしたいと、胸が熱くなる思いも感じさせられました。頑張り、志成君!!

# 司祭団マラソンに参加して

先日一月三十日。例年より肌寒く小雪が散らつく中、第39回司祭団マラソン大会が行われました。今回は、いつもの堂崎天主堂からスタートの10km走、浦頭教会からスタートのウォークに加え、駅伝方式で三名で走るリレー種目も新設され、三十六名の司祭が凍えるような冷たさの中、さわやかな汗を流しながらゴールの福江教会を目指し走られました。

ここ数日、寒波の荒れた天気です。雨や雪が多く、もしかしたら悪天候で中止になるのではないかと期待、いや心配される神父様もおられたことでしょう。祈りが天に届いたのか、小雪が舞い風が冷たいが、何とか開催出来る天気になりました。

しかし、本当にこの日は寒かったです。冷たい風雪の中を走るの辛いものですが、各地区、

教区のボランティアの方々や沿道で応援して下さる地区の方々、車の中から大きな声で「がんばれー！」と旗を振りかざす施設のお年寄りの皆様。そして、何より冷たい風にあたり身体を震わせ、目とほっぺを真っ赤にしながら一生懸命応援する園児たちの熱い声援のおかげで、身心共に温かくゴールまで走りきることが出来ました。

来年は第40回になる司祭団マラソン大会。さらなる盛り上げを期待し、無事に開催することが出来るよう祈りたいと思います。

木口 誠也



# 今年の黙想会

三月五日の夜から、八日の昼までの三日間。主任神父様の御指導のもと、行なわれました。

## 感謝のことば

鍋内 秀明

今回の黙想会は、二〇一二年の信仰年から始まり、信徒の減少、ミサ参列者の減少、子どもたちの教育に対する危機感などを背景に、これらの課題をともに解決して歩いていくために、シノドスの提言への検討が始まったことを少し理解できました。神父様の少し若いときのお姿もスクリーンを通して拝見することができました。

ここ浦頭教会でも少子・高齢化の波は全国に先駆けて、最先端を走っている地域であります。半数以上が六十五歳以上の高齢者であります。

シノドスの提言が出されましたが、何をどうすればいいのか

はつきりわからないというのが正直な今の気持ちです。

ただ、マザーテレサや教皇様のようなことはできませんが、人と人とのつながり、地域とのつながり、愛されているということを感じさせる行動、思いやりの心で日々を過ごしていくことは、私にもできると思います。実際にそういったことを行っていくのが、私たち信徒だと思います。そうすれば、自然と十字架を切ることができると思います。早いもので、小瀬良神父様が赴任されて間もなく一年を迎えようとしております。それぞれの小教区でこれまでの伝統、各種事業の進め方などの違いがありますが、戸惑うことも多いと思います。互いに協力し、相談し合いながら、洗礼を受けた喜びを感じられる生活が送れるよう、これからもご指導、お導きいただけるようお願いを申し上げます。黙想会に当たっての感謝の言葉といたします。

本当にありがとうございました。

## 中村長八神父様の生涯を追って④

中村神父が神戸から日本の地を離れ、南米の大地に向けて出帆したのは、大正十二年六月十一日。郵船・河内丸かわちはインド洋を超え、アフリカ南端を迂回し、更に大西洋、アルゼンチン沖をまわり、ブラジルのサントスに七十五日かけて到着した。

直ちに、リオデジャネイロのローマ教皇庁大使ドン・エンリロ・ガスパリを訪問。大使から宣教師として必要な時、いかなる場所でもミサを立てる権限（具体的には公的な礼拝堂がない場合において、携帯用祭壇にて聖なるミサを捧げる権限等）を付与した文面の文書の発布を受けた。

それを手に彼は、当時ブラジル国内においては、唯一の日本人宣教師であるという使命感の元に、日本全体に及ぶような広大な大地の布教に取り組んでいく。当時、ブラジルには四万人

の日本人がいて、うちカトリックは一七〇家族、信者数は八〇〇人程だったが、圧倒的な広さの中、ジャングルの奥まで住家は散在しており、中村神父様の情熱がなければとうてい伝道を継続出来なかったものと感じられる。彼はサンパウロ州にあるボツカツで、ラテン語にも堪能な現地人からブラジル語を習い、(二人の対話はラテン語だった。)年内の十一月には、近くの日本植民地や日本人移民の入っているブラジル人経営農園の巡回を始めた。

移動手段は馬や徒歩が多かったが、決して乗馬が得意とは言えなかった神父は落馬を何回も経験し、一度は打ち所が悪く気絶し、気づいた時は移民の家の寝台という事もあった。後では「最近、落ち方がうまくなって、落ちてもピタッと立てるようになりましたよ。」と語っている。又、徒歩で移動する場合、時によつてはより過酷さが増していた。

# “復活祭の卵” 配りを終えて

青年会

主のご復活、おめでとございます。  
います。

青年会では、今年も復活のたまごのお手伝いをさせていただきました。当日は、ミサ前にバタバタする場面もありましたが、神父様から祝別をいただき、無事に皆さんにお渡しすることができました。今年は例年よりもお菓子を増量し、子供たちが喜んでくれていたので良かったです。今年度も微力ではありますが、よろしくお願いします。



## 浦頭小教区 50年誌 購入希望者 募集

締め切り

5月31日

―購入希望連絡先―

◎広報委員長 竹山 要司

〒八五三〇〇五二

五島市平蔵町三〇一六一三

☎〇九五九一七三一〇一四一

◎島のひかり編集長 木口 重憲

〒八五三〇〇五一

五島市平蔵町二七四四一

☎〇九〇一七四七四一八七四一

定価 **三千元** + 送料着払い

☆50周年事業において、記念誌の発刊が決まり、小教区内においては、回覧で希望者を募りました。

小教区外においては、希望者を本誌本号において募らせていただきます。

## おたより

主の平和

いつも「島のひかり」をお送り頂き、ありがとうございます。浦頭教会の主任神父様をはじめ、信徒の皆様のお祈りと、お働きに心から感謝申し上げます。

ふるさとのお便りは、ふるさとを離れている者にとって大きな喜びと支えになります。

信仰に結ばれていることを感謝致します。

神奈川県藤沢市 聖心の布教  
姉妹会 Sr大川ヨシノ

定年退職後、消防博物館で五年勤務していましたが、三月をもちまして退職いたします。暫くは、ゆっくり旅をしたいと考えています。折を見て、福江にも足をのばしたいと思えます。いつも島のひかりのご送付ありがとうございます。事務局の皆様も大変でしょうが頑張ってください。

東京都葛飾区 本村 久美ひさみ

秘

跡

《帰天》

カタリナ

川口 トミ

浦頭 九十四歳  
一月二十三日

ジョアンナ

本村 光枝

浦頭 八十一歳  
二月十八日

《初聖体》

二月四日

アンデレ・ジュンラク

木口 清次

父 北斗  
母 育美

# “ありがとう”

次の方々より御芳志がありました。感謝いたします。

東京都 本村 久美様  
神奈川県 Sr大川 ヨシノ様

## 聖週間を終えて

木口 重憲

復活の徹夜祭は、二つの舞台が鮮やかに切り替わっていくイメージがあります。

聖金曜日の悲しみから、確信に満ちた復活の主日の歓喜へ。聖週間は、「枝の主日」から始まります。

ユダヤ人の過越祭の前、イエズス様はロバに乗ってエルサレムへ入られました。待ち構えていた群集は、「イエス・キリストがダビデ王のように、イスラエルの国を復興させる王としてエルサレムに来られた」と考え、自分の服やシュロの木の枝を道に敷き、「ダビデの子にホザンナ」と叫んで、イエズス様を迎えました。それは今、「枝の主日」として現わされ、伝わってきました。

それは、感動的な最後の晩餐ばんさんに繋がっていきます。その時、イエス・キリストは

弟子たちの足を洗い、「主であり、師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたも互いに足を洗い合わなければなりません。」というメッセージを弟子達に与えられました。今、それは洗足式せんぞくしきという形で聖木曜日のミサの中で行なわれる事もあります。

私も、岩崎神父様から直接、足を洗ってもらった事がありました。その時は、自然の流れの中でそれを受け、深くイメージを掘り下げることが出来ませんでした。：反省：

フランススコ・ローマ法王はローマ郊外の難民受入施設で十二名の難民の足を洗い、祝福のキスをしました。洗足式前に行われたミサの中で法王は、「皆、平和の中で共に生活することを望んでいる。」と述べられました。洗足式のメッセージは、「世界の人々がお互いを認め合い、隣人愛を行っていきましょう」という強い意志を現わしていると感じます。

## ふるさとだよー

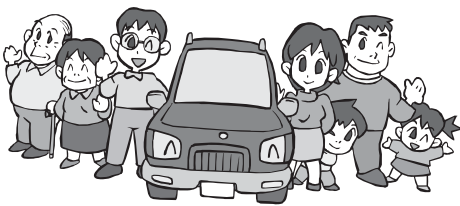
### 浜泊道路拡幅

### 工事進む

浜泊の吉村さん宅前までは、前年度の工事で広くなっているが、今年度は、その先から大浦線に抜ける別れ道の所までが、福江の土木会社によって完成した。

この道路も昔と違って、五島バスやマグロ養殖の大型トラックが頻繁に往来するので、危険度が高い。

これから数年かけて樫ノ浦までの工程がありますが、ドライバーや歩行者の皆さん、くれぐれも安全第一でお願いします。



## 第24回五島椿まつり

### チャーチコンサート in 福江教会

三月三日。あいにくの小雨でしたが、広い聖堂は沢山の人がいっぱい。まずは福江少年少女合唱団のかわいい歌声で始まり、コールフロイデの情感あふれる合唱。そして、奥浦混声合唱団はアベ・ベルム・コルプスそしてアベマリアを二曲と教会音楽を。

最後は東京から堀澤麻衣子さん。ソロで海外でも活躍され、五島の名産を織り込んだ曲もあつたりと、美しい歌声は心を癒してうっとり／聞けば彼女はボラントティア先の病院で、患者さんと先生方から『音のくすり』としてお墨付きとか…ソロで聞くアベマリアは格別♥ブラボ〜!!



## 市民駅伝大会に 参加して

本村 愛子

二度目の市民駅伝。前年は、走る練習を全くしなかったにも関わらず、区間新記録を出してしまつて少し罪悪感もあったので、今年はそれなりに練習して大会に臨みました。

本番の目標は、「昨年の自分に勝つこと（＝今年も区間新）」。

二位でタスキを受け取り、いざ走り出しました。まずは前の人に追いつこうとしましたが、走れども走れども追いつかず…。結果としては昨年の自分に勝つたし、チームとしても連覇を成し遂げましたが…。

今回の大会で、「やっぱり自分は負けず嫌いだなあ」としみじみ。

来年も「自分に勝つ」を目標に頑張りたいです。



## おくうら桜 (河津桜)

満開

三月の初め、夢想会の始まりと同時に奥浦バイパス沿いと、干拓周辺に植えられた河津桜が満開となった。河津桜は一九五五年、静岡県加茂郡河津町の飯田勝美氏が河津川沿いの雑草の中で自然交配により一メートルほど成長した苗木を偶然発見し、庭先に植えたのが始まりとされる。奥浦には約二〇年前前に植えられ、毎年この時期になると淡い紅色が道中を彩る。

島内からも噂を聞き付け花見客が訪れ、一足はよい春を満喫している。



## 猪 騒動記



ついに、見てしまった。夕方大蔵川（浦頭地区の小川）を散歩している時だった。途中、道が合流するコンクリ橋のたもとを通り過ぎようとした時、目の前に忽然と大きな物体が！思わず「ワツ」と言ってしまった。相手も驚いたのだろう。『グォー！』大きな声をあげながら、ザザザと、木々の中にいわゆる猪突猛进のごとく隠れ去った。娘から「お父さん、この前お母さんと散歩した時、猪が掘った穴がいっぱいあったから、あそこはもう日暮れ時は散歩無理かもよ。」

あー、やっぱり。その辺り、いたる所で発見者多しと聞いていたが、子供達は特に危険だなと実感した。

流通に乗せてメリットを生かせとか、超法規的な措置で自衛隊に駆除してもらえとか、いろんな案が出てきているが、早急な対策が必要な事は、皆が強く感じ始めているようだ。

## 編集後記

奥浦の干拓のまわりに、淡いピンク色の桜がきれいに咲き誇っていた。三月は別離の時でもある。

奥浦小学校、奥浦中学校の卒業式に参加させてもらった。最近の子供達の、いい意味での自己PR力の力の付け方が目覚ましい。これは、教育の方向性がそちらの方に強く向き出したという事だろう。数十年前、昭和三十年代までは謙譲の美德が尊ばれていた事を思うと、隔世の感さえある。

日本人がかなりの勢いで海外に行くようになり、特にスポーツ選手等の活躍のニュース等が最近、巷を賑わせている。そんな中、自己ピアー力や自己肯定感の必要性が増しているの

だろう。

巣立つ子供達が、自分達に与えられた場所で、自分なりの咲き方できれいに、たくましく咲くことを祈りたい。